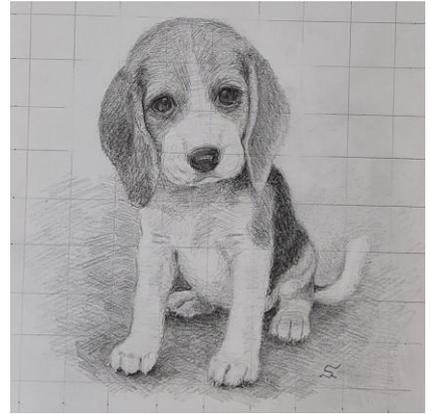




○ ペット

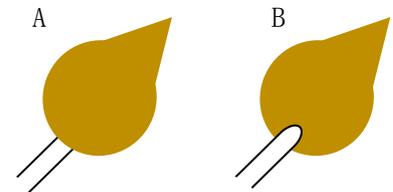
ペット総合学科は学生の夏休みが他の学科よりも早く始まり早く終わりました。私の授業もすでに2回行いました。このたびはデザイン科でも実施した升目デッサンです。お気に入りの写真を各自が持参して描きました。制作時間は合計で6時間です。今までよりも長めの時間でしたが、皆一生懸命に取り組み、レベルの高い作品が仕上がりました。記録（撮影）することを忘れて返却してしまったので、ここで紹介することが出来ません。残念！仕方がないので私の参考作品を載せてみます。ビーグル犬はかつて飼っていたので私にとってはすごく愛着のある犬です。



私はこの絵を描きながら手塚治虫さんのことを思い出していました。ジャングル大帝のレオです。ごく単純な線でありながら四つ足動物の骨格がしっかりととらえられていて毛並みの柔らかさも感じられます。小学生の頃は胸のあたりの尖っている物は何だろうと不思議に思っていたのですが、あれは毛が中心に向かってるので尖っていると後で分かりました。ビーグルもまさにそうでした。この部分は撫でる方も撫でられる方も気持ちがいいところです。手塚治虫さんもそこに目を留めていたのでしょう。



また、私はこの絵の尻尾に注目して学生に伝えてみました。Aの尻尾は先がこちらを向いています。Bの尻尾は向こうを向いているように見えるでしょう。小さな部分ですが立体表現としては大きな違いがあります。この辺りも手塚氏は的確ですね。



ついでにビーグルが主役の「PEANUTS」に登場するスヌーピーの話をしました。立体表現とは特に関連はありません。犬小屋の天井で寝ている姿の絵を見て、漫画ならではの表現だな、実際には犬がこんな人間のように無防備にあおむけで寝るはずがない、と思っていたのですが、飼ってみると本当にしょっちゅうあおむけで寝ることが分かりました。この犬種は年齢を重ねても子どものように無邪気な一面をもっており、手を焼くこともあります。そこがかわいいところでもあります。



○ 自校自賛？

朝、YC校の玄関で窓ガラスに停まっているトノサマバッタを見つけました。右に写っている料理の写真に惹かれたのでしょうか、羽が小さいようなので生まれたばかりで休んでいるのでしょうか？かなりしばらく停まっていました。調べてみるとダイモウバッタとも言うそうです。トノサマバッタを漢字で表すと“殿様飛蝗”です。初めて知りました。それにしてもつるつるのガラスに落ちないでよく停まっていられるものだと感心もしました。

